

パブリックコメント意見一覧

応募数 : 25名(うちWeb利用13名)、 124件

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見等(原文のまま)
1	14	第1章はじめに	2 第2次計画の振り返り	(2)分野・施策ごとの振り返り ⑤教育・人権分野 5-1-2 同和問題	「同和問題」を削除する。 理由、同和特別対策はすでに終結しています。必要な施策は一般施策として取り組むことです。
2	14	第1章はじめに	2 第2次計画の振り返り	(2)分野・施策ごとの振り返り ⑤教育・人権分野 5-2-2 男女共同参画	「男性」を削除。 理由、性別にこだわることは差別です。
3	14	第1章はじめに	2 第2次計画の振り返り	(2)分野・施策ごとの振り返り ⑤教育・人権分野 5-3-1 学校教育	「部落問題を考える」を削除。 理由、部落問題は基本的に解決している問題。
4	24	第1章はじめに	4 今後の課題	【(1)人口減少の抑制】 より積極的に人口減少抑制し、持続可能なまちづくりにつなげていく必要があります。	今は大学に進学しそのまま都会で就職するのが普通の時代であり、減少を止めるのは難しいと思います。こうしたことも踏まえて、実効性のある取り組みをすすめてほしい。
5	24	第1章はじめに	4 今後の課題	(1)人口減少の抑制	「抑制」だけではなく、人口減少に應じたくらしのありかたを日本の市町村の中でも先行してとりこんでほしいと思います。もちろん何もしないわけにはいかないと思いますが、どの市町村も人が移ってくることをすすめているだけでは、日本全体で見ると持続可能とは行かないと思います。
6	26	第1章はじめに	4 今後の課題	(2)時代・社会の変化への対応 ③COVID-19などの新たな危機 「行政のデジタル化」	26ページ行政のデジタル化について、声の大きい人の意見に流されなくて良い。コロナ禍をきっかけにこれまでのやり方を変えるべき。市に文句を言う人の演説を聞かなくていい。
7	26	第1章はじめに	4 今後の課題	(2)時代・社会の変化への対応 ③COVID-19などの新たな危機 「行政のデジタル化」	YouTube配信により、いつでもどこでも誰でも閲覧出来ること、意見も人前より言いやすい事、映像によりわかりやすくなっている事、倍速で聴ける事から非常に良い。今後もこの方針で情報発信をお願いします。

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見等（原文のまま）
8	28	第2章 基本的な考 え方	1 第3次 計画のテー マ	【（1）市政の バージョンアッ プ】	コロナ渦をきっかけに、これまでのやり方を替えていくほうが良いと思います。安心して暮らせる伊賀市にするために様々な取組をしていただいていることが、よく分かりました。新しい生活様式の確立に向けて、今回のようにぜひともデジタル化、オンライン化をすすめてほしいです。
9	28	第2章 基本的な考 え方	1 第3次 計画のテー マ	【（1）市政の バージョンアッ プ】	オンライン化、デジタル化は賛成です。今後はさらに進めてもらいたいと思っています。ただ、高齢者や苦手意識が強い方にはアレルギーがないので無料勉強会など開催していく必要がありますが、今だから変わっていくチャンスだと思います。
10	30	第2章 基本的な考 え方	2 第2次 計画からの 改善点	②指標の見直し	まちづくりアンケートによる「満足度」「市民参画度」の2点を指標としているが、「今後の重要度」についても、市民の意見や要望を表すものとして重要な数値である。指標に「今後の重要度」も加えるべきである。
11	35	第3章 分野別施策	施策・基本 事業の一覧	5-2 同和問題	「同和問題」の項目を削除。 理由、同和問題解決のための同和特別対策はすでに終結しています。今の時代にこの項目を取り上げることは間違いです。
12	39	第3章 分野別施策	1 健康・福祉	全般	（39）福祉について、点字ブロックの色を見えやすい黄色に統一すべきである。ハイトピア近くの横断歩道では点字ブロックが灰色にされている。これでは道路と同化してしまい見えづらい。誰のための点字ブロックなのか？見栄えのために利用する障がい者にとって不便になるのはおかしい。
13	45	第3章 分野別施策	1-2 医療	【基本事業③】 伊賀流自治の視 点の行政欄の 「介護人材の確 保や育成など新 たな課題解決に 取り組みます」 について	これまでも指摘してきたが、基本事業では具体的な資格取得の講習内容は記載されておらず、不足する人材育成に対する施策の記述が不十分である。
14	45	第3章 分野別施策	1-2 医療	【基本事業②】 連携した支援の しくみづくりを 進めます	今現在でも他職種連携を行っているが、今後は更に多職種連携が必要と捉えているようだが、肝心の現場をコーディネートするケアマネジャーの試験受験者数が2017年度の131,560人から2020年度は46,456人まで激減しているデータがある。要となる職種の人材育成を基盤に連携を計る必要があるが、具体的な内容が示されていない。

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見等（原文のまま）
15	49	第3章 分野別施策	1-4 高齢者支援	【基本事業④】 介護人材の確保・定着・育成を総合的に推進していきます	ここでも必要とされる資格取得についての人材育成の具体的な内容が記載されていない。 基本事業に⑤を新たに付け加え「社会参加と移動の充実」を付け加え、「地域の行事やふれあいサロンへの参加を促進し、移動サービスによって日常生活が充実し、介護状態になることを防ぐ。」と記述する。
16	49	第3章 分野別施策	1-4 高齢者支援	【基本事業④】	成果指標が居宅介護サービス事業所数になっているが充実の指標として一面的に思う。 介護を受ける方がご家族にとって必要なサービスが整っているかどうか計れるような指標の検討をしていただきたい。
17	50	第3章 分野別施策	1-5 障がい者支援	【現状と課題②】 サービス事業者の不足等が問題となっています	基本事業①から③までの内容を見ても課題に対する施策の記述がない。 決定的課題である事業者不足をどう解決するのかを示すべき。
18	50	第3章 分野別施策	1-5 障がい者支援	全般	課題に対して基本事業が対応していない、あるいは言及が不足している。 相談支援、就労支援等に関わる専門職の確保および人材の育成、資質向上等について触れるべきではないか。
19	51	第3章 分野別施策	1-5 障がい者支援	全般	全般を通して障がいにあったサービスを行うための人材の育成や確保、定着についての記述がないので加えていただきたい。
20	52	第3章 分野別施策	1-6 子育て・少子化対策	全般	子供達が安心して遊べる公園、屋内遊技場が他所に比べ少なく他の市町村にまで出かける親子が多いのが現状です。また保育所も建屋や設備の老朽化が目立ち、駐車場への道も暗く安心して預ける事が出来るとは言い難いのが現状です。そのため若い世代の流出も起きているのでは無いでしょうか。
21	53	第3章 分野別施策	1-6 子育て・少子化対策	【基本事業②】 子ども医療費の助成について	子ども医療費の助成については、中学校卒業までの年齢を無料にしているのだから、窓口での無料も同様の年齢まで拡大していただくことを計画に入れて下さい。

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見等（原文のまま）
22	55	第3章 分野別施策	2 生活・ 環境	2-1 危機管理	防災上も水源をなくさないことが大事なので一か所に集中しないようにしてください。
23	56	第3章 分野別施策	2-1 危機管理	全般	島ヶ原地域は28災害が起きた場所ですが、今のハザードマップに 掲載されていない地域に工場等があり、高齢化も著しくメールやネット環境に 対応出来ない人もいます。また過去には工場火災が起き、消火に必要な水源が 井戸水のため不足していたとも伺いました。情報伝達や災害発生時のリスク回避 について、経験を踏まえた検討をお願いします。
24	57	第3章 分野別施策	2-1 危機管理	【基本事業②】 非常時に通信手段の確保に努めます	特に高齢者、障がい者はかなり不安。 具体策の掲載をする。
25	57	第3章 分野別施策	2-1 危機管理	【基本事業③】 あらゆる危機に対応できる組織体制の整備・充実を図ります。	表現が抽象的であり、今後の方針や方向性を言及した形で表記すべきではないか。
26	57	第3章 分野別施策	2-1 危機管理	【基本事業②】 新たな防災システムの導入を進めます。	アナログ無線機の使用期限が間近に迫る状況にあって、災害時等における新たな伝達手段は未だ示されていない。災害は何時起こるか解りません。早期の事業化を強く求めます。

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見等（原文のまま）
27	61	第3章 分野別施策	2-2 消防・救急	【基本事業①】	施設・車両・資機材更新を計画的に進めるためには、消防力整備計画作成について言及すべきではないか。
28	64	第3章 分野別施策	2-4 環境保全	【基本事業①】	伊賀市内にも各法令に基づき操業されている企業が多くあります。遠方に行かずとも身近に家電リサイクル法の処理されている企業もあり小中学生等への環境教育の場として活用してはいかがでしょうか。
29	65	第3章 分野別施策	2-4 環境保全	全般	市内では、ごみ不法投棄、山林を伐採しての太陽光発電、残土の埋立など各地で行われている。国の法律や県や市の条例に基づき事業認可の手続きは進められているが、住民として危険性や不安を感じていても止めることはできない。安全な環境が保たれ、自然や生活の良好な環境が守られるよう、市として規制をかけられる条例の制定を明記していただきたい。
30	68	第3章 分野別施策	2-6 上下水道	【現状と課題 ①】 施設の最適化、 統廃合	現状分析は中間案と同感ですが、上水道事業の統廃合には納得できません。広域水道が最善の方策でしょうか。私は4年前埼玉県から移住したものです。埼玉では飲料水は浄水器かペットボトルです。私が柘植に住んで一番感動したことは水道水のおいしさです。蛇口をひねってそのまま飲める。山奥の数十件の集落ではないこの伊賀市で、これはある意味奇跡です。それなのに市はその宝を捨てて15キロ離れたゆめが丘浄水場からの水を私たちに飲めという。たとえば悪いかもしれませんが、自分の家に立派なトイレがあるのに隣の家の新しいトイレを、最新式で省エネだからと借りに行くようなものです。数十年前の川上ダム計画にぶら下がり、固執する伊賀市は本当に住民の利益を考えているのでしょうか？住民の50年、100年後の安心、安全、幸福を考えるならば、木津川の水源を守るように、他の水源も守り活用するべきで、目先の損得で判断すべき問題ではありません。市が廃止しようとしている水源に超近い浄水場は、住民の生活を潤しそして、観光の目玉となって伊賀市を潤してくれるでしょう！
31	68	第3章 分野別施策	2-6 上下水道	【現状と課題 ①】 人口減少や、節 水機器の普及に より収益性が悪 化が慢性化する	そもそも、2008年に策定されたままの「伊賀市水道事業基本計画」そのものが、全くの時代錯誤と言う他有りません。この時点で、人口増加のような計画は、直ちに止めるべきであったにもかかわらず、進めてしまった伊賀市。今すぐにも、やめて頂き、新しい今ある水源を守るための計画を作って下さい。今ある水源を活かす事が、改修工事や、ランニングコストも含め、最小限に抑える事が出来るのです。目先の合理的なコスト削減では無く、子供の未来のためにも、持続可能な環境に優しい伊賀市を作るため、今ある水源をのこすべきです。を残して下さい。
32	68	第3章 分野別施策	2-6 上下水道	上水道事業全般	人口減少している現在、川上ダムからの水利権を減らして下さい。

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見等（原文のまま）
33	68	第3章 分野別施策	2-6 上下水道	上水道事業全般	伊賀市の上下水道を語る際には「川上ダム」のはなしがさけて通れないと思いますが、全くかいてありません。ダムの仕組みと利水について、及び治水について、論点として、またどういうものなのかを知らせる必要があると思います。
34	68	第3章 分野別施策	2-5 上下水道	上水道事業全般	水道事業基本計画と同じ文章ですから、相も変わらず「川上ダム水利権に寄る事業」という文言は見当たりません。市民の目を誤魔化しているのか、それともこの先“ダム水利権返上”は有りうるのか？とらえどころの無い中間案ですので、ハッキリさせて下さい。2025大阪万博の予算が1.5倍になってしまいました。今後更に上乘せされる可能性は否定できません。川上ダム建設もそれに準じた話ではないですか？水機構（川上ダム建設所）さんにこれまでの川上ダム建設の費用とこれからの予算を明らかにしてもらい、この中間案に載せて市民に周知させる必要を感じます。市民のお財布を“打ち出の小槌”と思って、これからの水道料金値上げ、一般会計からの持ち出し増加が行われないようにして下さい。‘川上ダムの利水から、西宮、奈良が撤退した時に伊賀市も撤退すれば良かったのです’人口も減り、財政も厳しくなり、更にはコロナ禍に見舞われているこの時、市財がどこに金をつぎ込むのか？このごに及んで前の計画どおりになぜ進めるのか？シンプルに考えるべきだと、考えます。環境に優しい水道事業、おいしい水の供給と唄っていますが、川上ダムからの水を使い、ゆめが丘浄水場統合計画なのでこれらの唄い文句は、そぐわないです。川上ダム建設そのものは環境を大きく壊しています。水は人権。廃止計画にある水源の存続を願う市民を尊重して下さい。納得のいく説明をして下さい。
35	68	第3章 分野別施策	2-5 上下水道	上水道事業全般	伊賀市の水のきれいな水源を守り、市民の飲料水としての水利権を持続してほしい。今、計画されている川上ダム利水にかかわって、長年利用してきた水源を閉鎖することのないよう願う者です。
36	68	第3章 分野別施策	2-5 上下水道	まち・ひと・しごと創生の視点	美しい水を提供、「水のきれいな伊賀市」とあります。何故「水のきれいな伊賀市」の水をダム水に切りかえなければいけないのでしょうか。このままでは「水のきれいな伊賀市」というアピールはむずかしいと思います。
37	68	第3章 分野別施策	2-5 上下水道	上水道事業全般	水道水が川上ダムの水に切りかわっていくこと、今までと違う水源となることを全く明記していないことに違和感を覚えます。水源地域の環境保全を謳っているしながら各地の水源を廃止しようとしているのは矛盾としかいえません。良好な水循環の維持とはどういうことか丁寧な説明を求めます。浄水場の維持更新の費用とダム建設の費用とどちらが高くなるのか比べるまでもありません。
38	69	第3章 分野別施策	2-6 上下水道	まち・ひと・しごと創生の視点	第3次計画中に川上ダムが完成します。美しい水を提供することで「水のきれいな伊賀市」という文言がありますが、市民が使う水道水はダムの水を多く使うことにより、様々な薬物を投入して「きれいさやおいしさ」を保つこととなります。それは、「きれいなおいしい水道」ではなくなるということです。よって、このような現状明記すべきではないです。

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見等（原文のまま）
39	69	第3章 分野別施策	2-6 上下水道	【基本事業①】 適正な料金体系 を維持	「適正」とは何か市民が理解し、納得できる書き方や説明に して下さい。
40	72	第3章 分野別施策	3-1 観光	全般	伊賀市の観光資源は忍者だけでは無い。旧町村部に人を呼び込 む仕組みとして忍者というキーワードに限った表現は、それら の地域を軽視していると感じます。
41	72 80	第3章 分野別施策	3-1 観光 3-4 中心市街地 活性化	【基本事業②】 忍者体験施設 【基本事業①】 旧上野市庁舎	ゲートウェイ機能について、忍者体験施設、旧上野市庁舎にそれ 言及がある。市内に集客力の高い観光資源が複数ある中でこの2か所 のみに絞って具体的に表記するのは適当ではないのではないか。
42	75	第3章 分野別施策	3-2 農業	【基本事業③】	障がい者や引きこもりの方々が農家と連携して農作業に関わり 仕事にしていく事例が市内にあります。農家の高齢化や担い手 不足の解消にもつながる農福連携の推進を充実させるためにも 計画に位置づけていただきたい。
43	79	第3章 分野別施策	3-3 森林保全・ 林業	【基本事業②】 公共施設等に伊 賀産材を活用 し、地域内利用 を促進します。	木材の地産地消の拡大のため民需を拡大するよう言及し、「公 共施設ははじめ民間施設、住宅等に、、」等と表記できないか。
44	80	第3章 分野別施策	3-4 中心市街地 活性化	城下町の景観に ついて	■城下町の景観について、本町通りについて重点的かつ本格的 に整備をしてはどうか 上野には多くの歴史的に価値がある建造物なども残っていますが、 それらは点在しており巡ろうにも巡りにくい、分からない というのが現状です。また、逆に新しい建物も混在しているた めに、景観を損なっているという現状もあります。そこで本町 通りに歴史的建造物を集中させて並ぶようにし、壮観な城下町 の雰囲気演出してはいかがでしょうか。本町通りにある景観 にそぐわない建造物は撤去し、そこへ曳家などを用いて歴史的 建造物を移築するなどして、その移築させた建物を利用して商 店街として活用できれば、景観も城下町時代のもものが蘇りま すし、巡りやすさや分かりやすさという点も改善され、伊勢おは らい町や飛騨高山のような非常に高い魅力を持つ観光名所にで きるのではないかと思います。

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見等（原文のまま）
45	81	第3章 分野別施策	3-4 中心市街地 活性化	全般	中心市街地の活性化に関して、2つの基本事業が示されているが、核となる旧市役所庁舎（南庁舎）の利活用も計画が一向に進まない状況にあって、果たして賑わいを創設することはできるのか。一刻も早く事業の進捗を図られたい。
46	83	第3章 分野別施策	3-5 商工業・産 業立地	【基本事業②】 企業誘致を推進 する	営業本部としての活動実績と課題が精査されておらず、具体的な推進方法が不明である。
47	83	第3章 分野別施策	3-5 商工業・産 業立地	【基本事業②】 企業立地促進事 業	■上野南部丘陵開発は、住宅部分も含めて価値があるという計画 ゆめが丘工業団地の南部への拡大は望ましいと考えますが、元々ゆめが丘は、工業団地・ベッタウン・職住近接の3つを兼ね備えることが強みの団地として計画されました。ですから、個人的には並行してついでとなるような部分だけでも住宅地部分の開発を行った方が、より魅力や効果を発揮できるのではないかと思います。
48	83	第3章 分野別施策	3-5 商工業・産 業立地	【基本事業②】 企業立地促進事 業	■ゆめが丘工業団地へのアクセス拠点を、四十九駅や市部駅に現状のゆめが丘工業団地へのアクセスは上野市駅・（茅町駅）・伊賀神戸駅からがメインとなっております。本来は四十九駅や市部駅が最寄駅であるため、そこを拠点とすれば、通勤アクセス向上、住民の移動手段確保、伊賀鉄道利用促進などに繋がります。企業とも話し合い、四十九駅や市部駅が拠点となるように考えることで得られるメリットは非常に大きいと思います。

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見等（原文のまま）
49	84	第3章 分野別施策	3-6 就業・起業	全般	（84）就業について、最低賃金の値上げが必須である。三重県の最低賃金は874円である。1日8時間週5日働いても、13万9840円にしかならない。このまま賃金が低ければより高い賃金の地域へ人が移動するのは止められない。県よりも高い金額の最低賃金を設定して欲しい。
50	88	第3章 分野別施策	4-1 都市政策	上野公園について	■上野公園の拡大 上野城の縄張りおよび周囲の観光施設を取り込んだ巨大な公園と出来ないでしょうか。例としては大阪城公園や上野恩賜公園を挙げておきます。
51	89	第3章 分野別施策	4-1 都市政策	全般	基本事業①②の中身を見ていると都市政策は伊賀市中心部のことばかり、旧市町村との連携がうかがえない。都市政策は伊賀市全体をみて考えるべき。
52	89	第3章 分野別施策	4-1 都市政策	【基本事業①】 コンパクトシティの記述について	前回の計画では、コンパクトシティと記述していたが、今回の計画では「シティ」が省かれているが、その意味するところは何か。
53	89	第3章 分野別施策	4-1 都市政策	【基本事業①】 コンパクトシティ・プラス・ネットワークの推進	■地域拠点の見直しや再編を コンパクトシティということで主要地区に誘導する取り組み自体は良いと思います。しかし、地域拠点を旧市町村市街地を基準に設定するのはバランスが悪く、分散による拠点機能の低下にも繋がってしまいます。予定されている支庁統合に合わせて、上野・新堂・阿保の3カ所くらいに絞った方が人口やアクセス上のバランス的にも良いのではないかと。
54	89	第3章 分野別施策	4-1 都市政策	【基本事業①】 コンパクトシティ・プラス・ネットワークの推進	■鉄道を基幹とした交通に 現在バス交通は、主に上野市駅・新堂駅・青山町駅などを基点として運行されています。しかし、基点駅にはバスで直接行きやすいものの、各地域からその最寄駅へは行きにくい経路設定になっています。例を挙げると、ゆめが丘から市部駅にも四十九駅にも直接行けないなどです。各公共交通の利用促進のためにも、鉄道を誘導の基幹として、最寄駅からバスで各地に行けるような経路設定となるように検討していくべきだと思えます。イメージとしては「お団子と串型の街」のお団子部分をバス交通に委ねるような形です。
55	91	第3章 分野別施策	4-2 住環境整備	全般	2017年10月からスタートした新たな住宅セーフティネット制度に基づき、伊賀市でも住宅確保要配慮者に対する様々な支援が必要です。そのために計画に位置づけて、しくみづくりや具体的な支援施策を進めていただきたい。

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見等（原文のまま）
56	92	第3章 分野別施策	4-3 道路	【基本事業①】	伊賀市は広域なためか、市道の維持管理が出来ていないと感じます。轍が目立ち大雨の際にスリップする場所、白線や路面表示が見えない場所も目立っています。ドライバーが気をつける前提としてそれらを確実に維持管理する必要があるのでは無いでしょうか。
57	93	第3章 分野別施策	4-3 道路	【基本事業①】	市役所庁舎周辺および市街地への接続道路の推進を検討すべきでないか。
58	93	第3章 分野別施策	4-3 道路	【基本事業①】 道路事業	■三重県道688号は拡幅すべきでは 三重県道688号は上野と名張、ゆめが丘と名張などを結ぶ、所謂「抜け道」と化していますが、両側1.5車線の狭い道路にも関わらず、猪田地区の中心部を通ることもあり、自転車や歩行者も多いという危険な道路となっています。実際に朝夕時間帯の交通量を調査していただいた上で、整備の検討を行っていただきたいと思います。
59	94 135	第3章 分野別施策	4-4 公共交通 7-4 広域連携	全般	リニアに関する戦略や検討に言及すべきではないか。
60	95	第3章 分野別施策	4-4 公共交通	【基本事業③】 伊賀線を永続的に維持していくため	伊賀市の現状と今後を考えた時、永続的な維持は絶対的な事ではないので、この表現は適切では無い。
61	95	第3章 分野別施策	4-4 公共交通	【基本事業③】	伊賀鉄道の維持は重要なことであるが、それゆえに実施計画の修正や再検討に言及すべきではないか。

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見等（原文のまま）
62	95	第3章 分野別施策	4-4 公共交通	【基本事業①】 地域バス交通確保維持事業	<p>■通勤通学需要を捨てれば収入源（＝維持基盤）が無くなる基幹的なバス路線は通勤通学需要が高いのに対し、逆にローカル輸送を担う地元運行のバス路線などにおいてはその需要がゼロに等しいという調査結果が出ております。市としてこれをどのように捉えていらっしゃるのかは分かりかねますが、このような結果になるのには誰の目に見ても明らかな理由があります。その理由とは「そもそも通勤通学時間帯の運行が無い」というものです。つまりニーズに合っておりません。地方部においては通勤通学、特に通学需要が路線の経営維持基盤となるのですが、その経営維持基盤を無くして果たしてどのように維持していくおつもりなのでしょうか？現状では福祉のためだけの義務的な運行、もっと言えばと体裁上だけの運行と化していますが、いくら縮小しようと維持基盤が無くなれば赤字額は増える一方です。また、可能な限り公立小中学校の通学生との混乗も進めていくべきだと考えます。これによりスクールバスの運行費を抑えるとともに、利用者の増加にもつながります。ちなみにですが、通勤通学と福祉の両方に対応するには、少なくとも『毎日』（←重要）「7時台前後」「10時台前後」「16時台前後」「18時台前後」「20時台前後」の5本は絶対に必要となります。それを踏まえて現在の各バス路線の時刻表と比較し、足りない部分を補うような方向で検討していただければ幸いです。特に見過ごされがちですが、夜の時間帯にバスがあるか無いかは重要です。それが無ければ多くの通勤通学者は帰れません。</p>
63	95	第3章 分野別施策	4-4 公共交通	【基本事業①】 地域バス交通確保維持事業	<p>■見直しは縮小ではなく合理化を軸に考えるべき 今年4月の三重交通バス路線再編では「改善が見込めないと、2023年4月から路線廃止か、地域による運行などへの転換の対象になる」とのことでしたが、その計画（特に諏訪予野線）の計画を見たときは「本当にやる気あるの？」と思ってしまいました。先ほどにも述べましたが、地方バス路線の経営維持基盤は通勤通学需要です。その通勤通学輸送に一切使えないようなダイヤに改悪してどのように改善が見込めると言うのですか？路線統合自体が悪いことだとは思いませんし、実際よく考えられているなぁと感心させられた部分もあります。しかし、こんな致命的なことをしてしまっただけは本末転倒です。そして諏訪予野線なのですが、なんでこの二路線を統合することで改善が見込めると考えたのかちょっと理解ができません。上野名張線や月瀬線・天理線など、単体でもある程度のサービス水準が確保できている路線に組み込むような形で統合すれば合理的かつサービス水準も大幅に向上して改善を目指せますが、赤字同士で地域間を直通する需要も無い路線を統合したところで何も変えられないではないですか。</p>

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見等（原文のまま）
64	95	第3章 分野別施策	4-4 公共交通	【基本事業①】 地域バス交通確保 維持事業	<p>■地域同士や民間との連携</p> <p>地域運行バスや行政バスが増えてきましたが、地域運行バス間の連携が取れてないのが大きな問題に思えます。南部を例に挙げると、比自岐コスモス号、神戸北斗号、青山行政バスの3つがあるわけですが、これらの3つの路線は重複していたり、自地区外での乗降が考慮されていないようなバス停設定だったり、地域同士での連携が取れていません。そこで例えば、南部地区の路線は共同運行とし、路線を一本化して合理化を図りつつ分担運行で本数を増やすなど、地域間で連携を取りつつ運行出来るような枠組み作りが必要だと思います。また、民間企業が自主的に運行する送迎バスなどを有償の一般向けバスとして運行することを依頼してみてもいかがでしょうか。例えばメナードさんは高頻度で送迎バスを運行している上に運行ルートが行政バスと被っています。また、ゆめが丘工業団地の各企業の送迎バスには安定した需要があるようです。こうした送迎バスを一般向けに開放できれば、振るわないバス路線を代替できる上に、運行者側にとっても余裕を有効活用して収入とすることが出来るという、所謂win-winの関係になりますので、検討する価値はあるのではないかと。</p>
65	95	第3章 分野別施策	4-4 公共交通	【基本事業②】 鉄道網整備促進 事業 「西日本旅客鉄 道関西本線につ いて」	<p>■関西線を名阪間輸送路線へと変貌させることでそのメリットを傍受できる</p> <p>関西線は名阪間を最短距離で結ぶルートの一つとして上げられる路線です。名阪間の流動は大きく南部を走る近鉄はそれが経営基盤の一つとなっているわけですが、非電化である関西線は名阪間の移動においての利用価値は低く、ダイヤもそれを考慮していないのが現状です。しかしながら電化が現実ともなれば、距離的優位性を活かして近鉄等とも十分競合できるポテンシャルがあります。そのポテンシャルが活かされれば、伊賀上野周辺単体での需要が小さくても名阪需要による恩恵を受けることが可能です。また JR 西日本としても、末端区間のローカル線を独立して維持するよりは、巨大流動の中継部分として運行する方が効率的なはずで。</p>

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見等（原文のまま）
66	95	第3章 分野別施策	4-4 公共交通	【基本事業②】 鉄道網整備促進 事業 「西日本旅客鉄 道関西本線につ いて」	<p>■サービスレベル向上に必要なのは利用促進と要望ではなく地元の負担による設備投資</p> <p>市としては「まずは利用者を増やし、JR 西日本の重い腰を上げさせたい」という方針のようですが、第一に沿線人口も利便性上昇していないにも関わらず利用が増えるなんて有り得ない話ですし、少し増えただけで JR 西日本が本当に電化をすると思いのなかでしょうか？過去の事例から考えて、計算すれば電化には 100 億円ほどが掛かると思います。利用者の微増では投資額に見合ったリターンは得られませんので、当然 JR 西日本が単体で行うことはまず無いでしょう。近年電化や複線化、駅リニューアルなどがなされた路線には確かにローカル線も存在します。しかしそれはリターンの無い事業を鉄道会社が慈善的に行っているわけではなく、地元が費用を負担する代わりに鉄道会社が工事を行うという形を取っています。身近な場所では草津線を見れば良いでしょう。かつて、「柘植駅や伊賀上野駅が草津線のようにリニューアル&バリアフリー化出来ない理由」として利用客不足を挙げられていましたが、草津線の各駅の利用者数は多くなく、リニューアルが地元の負担によって行われたことを知っていた身からすれば、「何をでたらめなことを言っているんだ」と言いたくなるような酷い回答だと言わざるをえません。つまり伊賀市や三重県、及びその他沿線自治体が費用を負担しない限り、電化は実現しません。しかし裏を返せば、費用さえ負担すれば電化が実現する可能性が高いと言えます。沿線自治体の数や財政状況を考えれば出せない額では無いはず。このまま利用促進や要望等にダラダラと費用が流れて何の成果も得られる見込みが無いであれば、確実性がある方法に投資した方がどう考えてもいいはず。このことを踏まえ、地元費用負担による電化など、各自治体間でしっかりと連携・協議していただきたいと考えます。</p>
67	95	第3章 分野別施策	4-4 公共交通	【基本事業②】 鉄道網整備促進 事業 「西日本旅客鉄 道関西本線につ いて」	<p>■直通列車や増発などによる効果を社会実験 また、利用促進を謳うならキハ75系を使用した直通快速列車の毎時運行なども社会実験的に試してみてもどうかと思います。こちらは富山の高山本線に類似する前例があります。</p>

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見等（原文のまま）
68	95	第3章 分野別施策	4-4 公共交通	【基本事業②】 鉄道網整備促進 事業 「近畿日本鉄道 大阪線につい て」	<p>■近鉄伊賀神戸駅の橋上化または高架化</p> <p>近鉄大阪線についてなのですが、伊賀神戸駅について、改良の必要があると思います。まず近鉄の特急停車駅としてはぶっちぎりで駅舎が貧弱ように感じます。別に駅舎がシンプルなこと自体は良いのですが、極度に狭い駅舎と頻繁に閉まる構内踏切、そして長いホームに端からしか入れないという構造的要因と、乗換客が短時間に集中するという運行体系上の要因から、ホームや踏切を含めた駅通路の混雑が酷く、電車との接触も危惧されるような危険な状態です。昨年度には踏切内での列車立ち往生による構内分断も発生しており、このような状態は解消する必要があると思います。乗換利便性を考えれば、伊賀鉄道線のみを地上に残した上での高架化や盛土が一番ですが、コスト的な問題を考えれば橋上化という選択肢もあるかと思えます。</p>
69	95	第3章 分野別施策	4-4 公共交通	【基本事業②】 鉄道網整備促進 事業 「近畿日本鉄道 大阪線につい て」	<p>■近鉄伊賀神戸駅の2面4線化による接続の改善</p> <p>現状の伊賀神戸駅は、上下各1本のみしか停車出来ないために、特急、急行・普通の双方と伊賀鉄道線との接続が出来ません。そこで名張駅のような2面4線への改良を行えないのでしょうか？土地を見る限りではちょうどスペースが空いているように思います。もしそれが出来れば、特急、急行・普通の双方と伊賀鉄道線が接続でき、接続時間の大きな改善が見込める他、緩急接続も可能となり、特急の停車本数増や名張駅での長時間の通過待ちの改善などにも繋がります。</p>
70	95	第3章 分野別施策	4-4 公共交通	【基本事業③】 伊賀線活性化促 進事業	<p>■本数調整と時間均一化による近鉄線との接続改善</p> <p>伊賀鉄道線は特に近鉄大阪線との接続において、運行本数と運行時間が合っていないために、特急を除けば毎時1本としか接続出来ていません。通学時間帯だけでも運行スパンを近鉄と同じ20分間隔に改められないのでしょうか？</p>

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見等（原文のまま）
71	95	第3章 分野別施策	4-4 公共交通	【基本事業③】 伊賀線活性化促進事業	<p>■平日昼間時間帯の本数適正化 通学輸送がメインの伊賀鉄道線は、平日昼間時間帯の利用が極めて少なくなっています。しかしラッシュ時間帯と変わらない本数が確保されています。これはラッシュ時間帯の本数が少ないということもありますが、それ以上に昼間時間帯の本数が過剰なのだと思います。先に述べたように通学時間帯は増発し、逆に昼間時間帯は毎時1本まで減便してはいかがでしょうか。</p>
72	95	第3章 分野別施策	4-4 公共交通	【基本事業③】 伊賀線活性化促進事業	<p>■低速で運賃も高い現状では敬遠される 伊賀鉄道線は普段から通学で利用していますが、低速かつ乗り心地が悪く、しかも気軽に乗れる運賃ではありません。速度面に関して言えば、実際見れば分かりますが自動車の方が早いレベルです。鉄道のメリットは定時輸送・大量輸送・高速輸送だと言われています。あのような速度では鉄道としてのメリットが無いも同然です。料金面に関しては、特に初乗りが短い距離でも200円というのは高すぎますし、利用するデメリットが大きすぎます。また伊賀神戸から上野市まで370円はあまりにも割高感があります。どうしても乗らなければいけないような場合を除けば、自動車の方が様々な面で優っており、伊賀鉄道線は選択肢にすら入らないのではないかと思います。以上のことから100km/h程度への最高速度引き上げや駅数の見直し（統廃合）、50円～110円ほどの運賃値下げの検討をお願いしたいです。高速化はハード面の課題ですが、運賃値下げに関してはソフト面の課題ですので、一時的に社会実験として行ってみるのはいかがでしょうか？ また、逆にフリーパス類は、乗ることが最初から目的として入っているような方がそのお得感から使うようなものですから、それはもう少し高めに売っても大丈夫なのではないかなと思います。</p>
73	95	第3章 分野別施策	4-4 公共交通	【基本事業③】 伊賀線活性化促進事業	<p>■小田町に新駅を イオンタウンおよび市役所最寄りとして四十九駅が開業しましたが、四十九駅周辺よりも商業や住宅等が集積しているのも関わらず、伊賀鉄道線最長レベルの駅間となっている空白地帯、小田町への新駅設置を検討していただけないでしょうか。既存途中駅のどこよりも需要が高いように思えるような立地であるにも関わらず、四十九駅とは違ってそという話が出ないのは何故なのかよく分かりません。「伊賀鉄道線にあったら便利な新駅」と言えば小田町以外に答えが無いというレベルなのではないかなと思います。</p>
74	95	第3章 分野別施策	4-4 公共交通	【基本事業③】 伊賀線活性化促進事業	<p>■「忍者市駅」「忍者線」などの愛称をもっと前面に 「忍者市駅」「忍者線」などの愛称をもっと放送や案内サインなどにおいて前面に押し出すべきではないでしょうか。</p>
75	95	第3章 分野別施策	4-4 公共交通	【基本事業③】 伊賀線活性化促進事業	<p>■リニアの誘致を JR東海の中央新幹線（リニア）の駅設置候補には亀山市や奈良市が挙げられています。リニアは「1県1駅」の原則ですが、伊賀地域に関しては生活圏も交通圏も文化圏も違う、言わば独立した県です。交通網から取り残されるのは死活問題です。ゆえに伊賀鉄道との交点へのリニア駅誘致を行うことを強く求めます。</p>

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見等（原文のまま）
76	98	第3章 分野別施策	5-1 人権尊重・ 非核平和	【現状と課題 ①】 「同和問題をは じめ」と「同和 教育」	「同和問題をはじめ」と「同和教育」の削除理由、同和問題解決のための「同和特別対策、同和教育」はすでに終結しています。今の時代にこの項目を取り上げることは間違いです。
77	98	第3章 分野別施策	5-1 人権尊重・ 非核平和	全般	（98）人権尊重について、伊賀市で外国人労働者が増えているが、外国人労働者や技能実習生の待遇が適切かどうか調査する、外国人の人権を守る取り組みが必要である。特に技能実習生については、違法な働かされ方が社会問題になっている。
78	98	第3章 分野別施策	5-1 人権尊重・ 非核平和	全般	・さまざまな場面での男・女 チェック欄の使用をへらして欲しいです。（性別は2つしかないというすりこみになる。性別を記入することが本当に必要なのか。）
79	98	第3章 分野別施策	5-1 人権尊重・ 非核平和	全般	・性別変更にかかる条件を見直す条例をつくってほしい。 手術が必要、子どもがいないこと、などの5つほどの条件が必要となっていますが（性同一性障害特例法）、トランスジェンダー当事者の中には性別適合手術を望む人もそうでない人もいます。体に手を加えないと戸籍の性別が変えられないということは、大変な人権問題だと思います。

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見等（原文のまま）
80	98	第3章 分野別施策	5-1 人権尊重・ 非核平和 5-2 同和問題	全般	14ページの⑤教育・人権分野の市民参画度が少ないのは何故か。本来、市民一人ひとり、人間としての権利が保障され個人として尊重されて、なおかつ、豊かな人格形成の自己実現への市民の努力、そういう日常をつくりだせる環境とはどのようなものか。人づくり百年。キーワードの中、「同和問題」の必要はあるのかと思う。長年にわたった政府と自治体の取り組みによって大きく改善されました。よって、2002年これ以上特別対策を続けることは、かえって部落差別解消の妨げになるとの事で、特別対策を終了しました。この時点で「同和地区」の法的根拠はなくなり「同和地区」は日本国にはありません。そこで必要な対策事業は一般施策として継続しなければならなくなったのです。今回の部落差別解消推進法は理念法であり、新たな差別を産むことにならないように付帯決議が付いています。一般施策としての事業として教育・啓発をうたっています。特別な対策を必要とする地域・地区が現在も残っているのであれば伊賀市は何をしてきたのかと問われます。5-1-1は押しつけがましい内容になっていないか問われます。5-1-2は、5-1-1に入れて・同和地区云々は割愛して、・隣保館云々を一般施策として全市的に広げ市民センター乃至支所の機能充実とすべきです。
81	98	第3章 分野別施策	5-1 人権尊重・ 非核平和	【現状と課題 ①】	「同和問題をはじめ」とあらゆる人権問題のトップ課題に位置付けられるような部落差別の実態（人権侵害）はほとんどありません。また、同和地区・同和問題などの用語をことさら使用しないこと。
82	99	第3章 分野別施策	5-1 人権尊重・ 非核平和	【基本事業①】 主な関連計画等	「人権同和教育基本方針」を廃止すること。1989年政府が出した「啓発推進指針」をふまえることが必要です。
83	99	第3章 分野別施策	5-1 人権尊重・ 非核平和	【基本事業①】 人権同和教育	「人権同和教育」を「人権教育」とする。理由、同和問題解決のための同和特別対策、「同和教育」はすでに終結しています。過去のことであり、今の時代に取り上げることは問題です。
84	99	第3章 分野別施策	5-1 人権尊重・ 非核平和	【基本事業①】 人権同和教育推 進団体	「人権同和教育推進団体」を「人権教育推進団体」とする。理由、「同和教育」はすでに終結しています。
85	99	第3章 分野別施策	5-1 人権尊重・ 非核平和 5-2 同和問題	【基本事業①】 【基本事業②】	市民一人ひとりが個人として尊重されるよう豊かな人格形成に励みましょう。互いに人権を尊重する地域社会実現のため、隣保館事業（103ページ基本事業②）を一般施策として全市的に広げ市民センター乃至支所の機能充実とします。あらゆる場面や、機会を通じて人権に寄り添える福祉社会をめざします。

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見等（原文のまま）
86	102	第3章 分野別施策	5-2 同和問題	全般	同和問題が柱の一つになっているが、なぜこれを柱にするのか。人権のところ包容して表記することで十分ではないか。同性パートナーシップ問題でもリードする伊賀市であるにも関わらず、同和問題を柱にするのはやめた方がよい。多様な人権問題にチャレンジする伊賀市だからこそ、柱の表現は変えるべき。
87	102	第3章 分野別施策	5-2 同和問題	全般	この施策すべて解除。 理由、同和問題解決のための同和特別対策、「同和教育」はすでに集結しています。「同和地区」という行政懸念は消滅しています。必要な施策は一般施策として取り組むことです。 （以下、部落差別の解消の推進に関する法（推進法）の問題点を記載のため省略）
88	102	第3章 分野別施策	5-2 同和問題	【まち・ひと・しごと創生の視点】 差別解消への展望を持って	「展望」を簡潔に具体的に提示することが必要です。差別解消の指標を提示することによって見通しを持った市民の積極的な参画が保障されます。
89	102	第3章 分野別施策	5-2 同和問題	全般	伊賀市が今も「同和地区」を設定し、同和施策を続けていることは問題です。よって総合計画からも同和施策に関わる部分は削除して下さい。
90	102	第3章 分野別施策	5-2 同和問題	全般	「現状と課題」の冒頭文書に「部落差別が残るなか」とありますが、一市民はこの伊賀市に現在、部落は存在しているとは思っていません。市の行政がわざわざ伊賀市の子ども達に部落地域を教えて差別意識を持たせている、こうゆう人権の名をかりた違った差別教育はやめていただきたい。
91	102	第3章 分野別施策	5-2 同和問題	全般	現状の指摘は間違っています。50年前は確かにそうでした。そのため不就学、不就労等の悪循環を断ち切るために、一般的に遅れた地区を限定して特別対策を講じ一般的な地区と同じ水準に引き上げる事業が同和対策事業でした。その限定的な国家事業が県・市町、地区の努力と共に成果となり、2002年に終了しました。以後は事業を継続するなら一般施策として市全体で取り組むことになりました。そうしなければ部落差別解消にならないからです。現在、「同和地区」はなくなり、部落差別の被害はほぼ克服されています。今こそこの問題を「同和問題」から人権問題に止揚させるべきではないでしょうか。全市民ぐるみで地域の進歩を実現する。部落差別解消が現実のものになるのです。この5-2項102、103ページ削除。

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見等（原文のまま）
92	103	第3章 分野別施策	5-2 同和問題	【伊賀流自治の 視点】 「地域」につい て	市民（団体）／地域／行政と3分類されています。自治基本条例第2条の用語の定義では「地域」は定義されていません。伊賀市同和施策推進計画での「関係地区」のことでしょうか？「市民」と「地域住民」との使い分けについて説明が必要です。
93	104	第3章 分野別施策	5-3 学校教育	【現状と課題 ①】 人権・同和教育	「人権・同和教育」を「人権教育」とする。 理由、同和行政・教育の終結が求められています。
94	105	第3章 分野別施策	5-3 学校教育	伊賀流自治の視 点（行政） 伊賀市人権同和 教育基本方針	「伊賀市人権同和教育基本方針」の削除 理由、同和行政・教育の終結が求められており、同方針は廃止すること。
95	105	第3章 分野別施策	5-3 学校教育	【基本事業①】 主な関連計画等	「人権同和教育方針」の削除 理由、同和行政・教育の終結が求められており、同方針は廃止すること。
96	107	第3章 分野別施策	5-4 境域環境	【基本事業①】 校区再編事業	■隣接する上野南中学校と緑ヶ丘中学校の生徒数のバランスが極端に悪い 隣接する上野南中学校と緑ヶ丘中学校の校区ですが、その生徒数のバランスが非常にアンバランスとなっています。上野南中学校の生徒数は上野地区最低の193人、対する緑ヶ丘中学校は市内で突出して多い553人となっております。また、上野南中学校校区では少子化が深刻であり、このままでは再度の統合が必要となる可能性もあります。そこで本来依那古地区であったゆめが丘を、緑ヶ丘中学校の校区から上野南中学校の校区へと移してはいかがでしょうか。この2校に限らず、生徒数のアンバランスさは教育の行き届きなどに不公平が生じるため、早急に解決していかねばならないと思います。
97	109	第3章 分野別施策	5-5 生涯学習	全般	生涯学習の推進について、例えば読み聞かせボランティアの育成など記載があるが、学校教室の使用に関する規制や規定がボランティア活動に影響をきたしている状況がある。関係機関等との調整を図ってほしい。
98	114	第3章 分野別施策	6-1 住民自治・ 市民活動	住民自治協議会 等について	■地区住民自治協議会の再編や刷新、相互協力などに向けた仕組みづくりを 現在、地区によっては過疎化や少子高齢化が激しく、マンネリ化や権力集中、人員不足などに陥っている場合があります。ゆえに地区の統合などの再編や組織の刷新、および地区間で協力して物事を協議したりイベントを主催したりできるような仕組みづくりが必要と考えます。

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見等（原文のまま）
99	115	第3章 分野別施策	6-1 住民自治・ 市民活動	【基本事業①】 キラッと輝け！ 地域応援補助金 について	ここではキラッと輝け！地域応援補助金について記載されているが、もっと自由意志が反映され、やる気が引き出せる補助内容で市民同士が主体となり、自由に考え、決定し、活動し、互いに評価できる支援制度をつくる。これが本当のふるさと応援寄付金の活用方法である。
100	119	第3章 分野別施策	6-3 文化・芸術	【基本事業③】 芭蕉翁顕彰事業	■芭蕉翁関連施設は集約するべきでは 芭蕉翁生家、故郷塚、芭蕉翁記念館、俳聖殿、芭蕉翁像といった芭蕉翁関連の施設は分散しており、周遊しにくく、またどこに行けば芭蕉翁の魅力を感じられるのかが分かりにくい状況にあります。そこで、芭蕉翁関連の施設を出来るだけ芭蕉翁生家付近に集約出来ないのでしょうか。上野図書館を利活用するという話もあったかと思いますが、正直それでも遠すぎると思います。
101	119	第3章 分野別施策	6-3 文化・芸術	【基本事業③】 芭蕉翁顕彰事業	■市民からの俳句を恒久的に募集してみても 伊賀市と同じく「俳都」と呼ばれる松山市には俳句ポストというものがあります。これに倣って伊賀市でも俳句を恒久的に募集し続けてはいかがでしょうか。
102	121	第3章 分野別施策	6-4 歴史・文化 遺産	【基本事業①】	正しい歴史を残す事を心がけてほしいと思います。貴重な税金を使って古いものを壊し、それを残すことなく新しい物を作る事は、その土地の歴史を消すことになるという事を忘れないでほしいと思います。
103	123	第3章 分野別施策	6-5 スポーツ	【基本事業②】 安全で利用しやすいスポーツ施設の整備、修繕、改修を計画的に行います	民間ではトレーニングジムの利用の仕方は、分単位で利用できる施設にし、手軽に気軽に利用できて、利益を上げている会社もあるとおり、今後は施設の利用を1時間単位だけでなく、もっと短時間でも利用しやすくすること。アンケートでも30%の方が今の利用時間の設定には満足していない現状がある。
104	123	第3章 分野別施策	6-5 スポーツ	【基本事業①】 スポーツ施設再 編整備・維持管 理事業	■上野公園付近にスポーツ施設を出来るだけ集められないですか スポーツ施設の再編にあたって、上野公園付近にスポーツ施設を出来るだけ集められないでしょうか。特にサッカースタジアム新設の話があったかと思いますが、実際新設するとなれば旧桃青中学校跡地などの上野公園付近に立地させるのが得策であると考えます。理由としましてはアクセスが良好であること、利用者や観戦者を上野に誘導することで市街地や観光施設の賑わいに繋がることが見込めることなどです。

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見等（原文のまま）
105	124	第3章 分野別施策	6-6 定住・関係 人口	【基本事業①】 魅力発信事業	<p>■まずは若者の流出を避けるために娯楽の整備を「郷土愛」云々以前に現状の伊賀市は若者にとってつまらなすぎます。何より娯楽が無いのです。大阪や名古屋などの周辺都市へのアクセスが良く行きやすい分、そこからの刺激を受けやすく、ゆえに都会志向が高くなります。その中でやはり娯楽の無さというものは際立ってしまいます。映画館やショッピングモールなど、伊賀市に足りない娯楽施設は積極的に誘致を行い、優遇するべきだと思います。それが定住人口増加には不可欠です。</p>
106	124	第3章 分野別施策	6-6 定住・関係 人口	【基本事業①】 魅力発信事業	<p>■アクセスの良さを前面に押し出した宣伝や開発を伊賀市の魅力の一つとして、名古屋、大阪、京都の3つの巨大都市圏への通勤が出来るような立地があります。特にコロナ禍でリモートワークが注目される中、このような都心へのアクセスが便利な郊外都市は非常に大きく注目されており、実際に多くの人口転入増加実績が生まれています。JR関西線の電化直通化高速化やアクセス良好な新しい宅地の提供などの開発投資を行いつつ、もっと上述の利点をアピールしていくべきだと考えます。</p>
107	129	第3章 分野別施策	7-1 広聴広報	【基本事業②】 広報活動の充実	<p>■Twitter、Instagramの活用を現在のSNSのトレンドはTwitterやInstagramがメインとなりつつあります。特にTwitterは拡散力が高く、上手く使えば爆発的な話題性を生み出すことが出来ます。例を挙げると伊賀鉄道さんの「スーツ列車」はTwitter上で大きな話題となり、実際に訪れたという人も多く見受けられました。</p>
108	131	第3章 分野別施策	7-2 財政運営	【基本事業③】 成果指標	<p>滞納繰越債権の減少額の目標が2024年には17億円まで減少させるとあるが、目標はいつになったら0円になるのか、もっと危機感のある数値設定にすべき。</p>
109	133	第3章 分野別施策	7-3 組織・人事	【基本事業③】 組織改善委員会	<p>組織改善委員会とあるが、位置づけと不具合や課題改善の意見をどのように集約、分析を行い改善に結び付けるのかが不明である。</p>
110	134	第3章 分野別施策	7-4 広域連携	【基本事業②】 広域連携の推進	<p>■奈良市月ヶ瀬地区との連携も大切に月ヶ瀬地区は合併により奈良市となりましたが、本来は伊賀市上野地区と密接に関係してきた地域です。歴史的に見ても猪田郷の一部であった時期があったり、上野城の管轄下であったりと関係が非常に深いです。そのことから月ヶ瀬地区との連携も図っていく必要があると考えます。</p>

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見等（原文のまま）
111	134	第3章 分野別施策	7-4 広域連携	全般	<p>■将来の合併も見据えて 将来人口減少や財政難が進むと予想されている周辺自治体（名張市、南山城村、笠置町、山添村）は単独での維持が困難になるであろうと言われています。県境を越えた合併なども見据えて、密接に連携を取り合っていく必要があると考えます。</p>
112	135	第3章 分野別施策	7-4 広域連携	【基本事業①】 【基本事業②】	<p>国が推奨している公共施設の広域連携について言及すべきではないか。定住自立圏内でのスポーツ施設等の地域分担を検討すべきではないか。</p>
113	137	第3章 分野別施策	7-5 情報化	【基本事業①】	<p>デジタル化への言及はあるが、手続きの簡便化やペーパーレス化の表記がない。</p>
114	151	第4章 横断的な取 り組み	(3) 推進 のための新 たな視点	<p>リモートワーク等の多様なライフスタイルの確立をはじめ、危機に強い社会環境の整備が必要です</p>	<p>コロナ禍の社会状況の中で、ちょうど良い田舎暮らしを望む人が増加しているため、このチャンスを逃すこと無く、定住人口増加に向けた施策として、リモートワークに強い伊賀市にしますと力強く宣言を。</p>
115	人口 ビジ ョン	P32 Ⅲ 人口勝 利展望	2 まち・ ひと・し ごと創生の推 進に向けて	『まち・ひと・ しごと創生』に 取り組みます。	<p>具体的に示されたい。 また、均衡のとれた人口構成を実現するため、実効性のある取り組みを進めてほしい。</p>
116	全体	全体	全体	※説明の手法について	<p>動画配信での説明は何度も見返したりできるのでいいなと思いました。</p>

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見等（原文のまま）
117	全体	全体	全体	説明動画の配信、パブリックコメントの手法について	今回のようなオンライン方式は、いつでも誰でも何時でも視聴できて、とてもいいです。会場まで行かなくていいので、お年寄りの方、サラリーマンや子育て世代にはいいことだと思います。
118	全体	全体	全体	説明動画の配信、パブリックコメントの手法について	この方法なら、誰でも自由な意見を出しやすいです。
119	全体	全体	全体	説明動画の配信、パブリックコメントの手法について	学生でも市政に参加できる環境は、素晴らしいと思います。
120	全体	全体	全体	説明動画の配信、パブリックコメントの手法について	オンライン方式だと、いつでも視聴できるし、回答の返信方法もいくつかあり、意見を出しやすいです。
121	全体	全体	全体	説明動画の配信、パブリックコメントの手法について	意見するにはオンライン化する事で誰もが発言出来ると思います。今、意見するのは年寄りばかり。若い世代とギャップがあると感じる。
122	全体	全体	全体	説明動画の配信、パブリックコメントの手法について	（動画）動画についての感想 項目名の羅列だけでは中身が分かりません 整理されていて助かるのですが、個人的には軽くでもいいので内容に触れてほしいかったです。「忍者市チャンネル」はチャンネル登録もして応援しているので頑張ってください！もっと周知されてほしいものですが…。
123	全般	基本構想	まちづくりの基本政策	3 ～未来のまちづくりを担う「人づくり・地域づくり」を進めます～	ほんとうにこれが進められていますか。
124	全般	基本構想	政策	文化活動やスポーツ活動が活発なまちづくり	主な内容の中に「芭蕉翁の功績を称え顕彰していくとともに、次世代を担う子どもたちに俳句の楽しさを伝え芭蕉翁を核とした交流事業や文化創造事業に取り組みます」と書いてありますが、芭蕉についてどれだけのことが現在残してある文献から判明することができるのですか？